

風しんの疫学パラメータ

- 病原体：Matonavirus科Rubivirus属に分類される、エンベロープを有するRNAウイルスである。
- 潜伏期間：平均16～18日（概ね14～21日の幅）
- 感染経路：気道粘膜より排泄されるウイルスが飛沫を介して伝播する。基本再生産数は5～7とされる。
- 有症状期間：発熱は風疹患者の半数程度であり、発疹も3日程度で色素沈着せず治癒する。
- 感染危険期間：発疹出現前1週間～出現後1週間とされているが、解熱すると排泄されるウイルス量は激減し、急速に感染力は消失する。また、発疹を認めない症例については、「37.5度以上の発熱」を認めた日を発症日とする。

参考：感染研ホームページ 風しんとは

感染研 職場における風しん対策ガイドライン

感染研 自治体における風疹発生時対応ガイドライン

日本感染症学会ホームページ 風疹

風しんウイルスの遺伝子型について

- 風しんウイルスの遺伝子型はWHOが作成した風しんウイルスの遺伝子型データベース（Rubella Virus Nucleotide Surveillance (RubeNS)）、によると13種類存在する。
- 現在、世界的に流行しているウイルスは遺伝子型1Eと2Bがほとんどを占めてきており、遺伝子型の情報のみではウイルスの追跡が困難となってきた。

参考：近年の風しんウイルスのウイルス学的変遷

IASR Vol. 40 p134-135:2019年8月号